令和６年度　長崎女子短期大学　教育システム総覧【全学科・コース共通】

建学の精神

「鶴九皐に鳴きて声天に聞こゆ」。

これは、中国の古典「詩経」の小雅・鶴鳴篇の中の一節で、本学園の建学の精神である。鶴は、人に知られない山奥の沢辺で鳴いても、その声は遠くまで達するという意味であり、この詩句には深い人間的意味が込められている。

社会の中で人に知られなくても、地味だが現実に根ざして誠実に生き、学びつづけている人は、深い谷間で鳴く鶴の声が、やがて天の高みまで響くように、必ず人々から高く評価されるようになるということである。

本学園では、深い誠実な生き方を示す「至誠」を基本として、人間教育を大切にし、「品性」を涵養する学園を創造しつづけている。

教育理念

明治 29 年の創立以来、輝く女子教育の伝統と歴史の上にたち、建学の精神に基づいて、深い学理の探求と優れた技術の練磨とによって、社会の平和と幸福の増進に寄与し、自立性をもつ現代女性の育成を使命とする。

教育目標（学訓）

「尽心・創造・実践」。

これは、建学の精神と教育理念に基づいて生まれたものである。

即ち、常に至誠の心をもって事に当たり、「もの・こと」の本質を見つめつづけ、古き慣習にとらわれず、より良きもの、より高きものを創ることに努め、かつこれを単なる理念にとどめることなく実践することを意味する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標（学訓）と学習成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者に卒業を認定する。これにより社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士の学位を授与する。また、各学科・コースが定める所定の単位を修得した者に、所定の免許・資格を授与する。

【 尽心 】
新しい時代に求められる資質や能力を修得するために、高い向学心と誠意を持って、「誠実な態度と人間力」を身につける。

【 創造 】
職場や社会で生じる問題を発見し解決するために、必要な資質や能力の修得に専念し、「高度な知性と創造力」を身につける。

【 実践 】
修得した資質や能力を生かし、地域社会に貢献するために、他者との協力に尽力し、「適切な行動と実践力」を身につける。

学習成果の到達目標

建学の精神と教育理念を具現化するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を学習成果の到達目標とする。

【 尽心 】
★態度・志向（心構え）
①「学習意欲」：勤勉さと真面目さがあり、目標達成に向けて粘り強く学ぼうとする意志を有している。
②「規律性」：善悪や道理の基準となる考え方が明確で、良心と社会の規範やルールに従い、状況に応じて自らを律することができる。

【 創造 】
★知識・技能（専門的能力）
③「知識」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な知識を身につけている。
④「技能」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な技能を身につけている。

★思考・判断（汎用的能力）
⑤「情報活用能力」：多様な情報を適切に収集・分析・判断し、情報および情報機器を効果的に活用することができる。
⑥「課題解決力」：論理的思考と想像力により、課題の発見と解決に取り組み、新しくより良いものを生み出すことができる。

★表現（汎用的能力）
⑦「言語活用能力」：言葉の基本的知識と文章構成力を身につけ、日常生活の中で状況に応じて適切に活用できる。
⑧「コミュニケーション力」：自分の意思や感情を的確に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解することができる。

【 実践 】
★行動・応用（実践力）
⑨「主体性」：自分の意志や判断に基づき、方針や計画を立てて行動し、結果に対して責任を負うことができる。
⑩「協働性」：共通の目標達成のため、他の人と協力して課題に取り組み、自他の能力を引き出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育目標（学訓）と学習成果の到達目標及び学位授与の方針を達成するために、次の項目を教育課程編成・実施の方針として教育を実施する。
授業運営と成績評価は、学則及び各授業科目のシラバスに従って実施する。各科目と学習成果との関連及び系統的な科目構成は、カリキュラム・マップ（リスト型、ツリー型）に示す。

【 尽心 】
多様な価値観や人生観を学び、自分の生き方を見つめ直す教育課程・教育プログラムを編成し、誠実な態度と人間力の修得を目指す。

【 創造 】
汎用的能力と専門的能力を修得する基礎科目と専門科目の教育課程・教育プログラムを編成し、高度な知性と創造力の修得を目指す。

【 実践 】
職場での専門的な業務や地域社会の人々に貢献するための教育課程・教育プログラムを編成し、適切な行動と実践力の修得を目指す。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学習成果の到達目標と学位授与の方針を達成するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を入学者受け入れの方針とする。入学者選抜の基本方針（評価方法、評価項目、評価割合）については、「募集要項」に定める。

【 尽心 】
誠実な態度と人間力を身につけるために、何事にも真面目で真剣に取り組み、他者を思いやる気持ちを忘れない者。

【 創造 】
高度な知性と創造力を身につけるために、基礎学力と教養があり、真摯に学ぶ姿勢を持ち続けることができる者。

【 実践 】
適切な行動と実践力を身につけるために、強い意志と行動力、責任感があり、社会に貢献する志を持った者。

本学では、特に次のような受験生の入学を期待している。
①高等学校までに修得すべき基礎学力を有し、本学進学後も意欲的に学業に取り組もうとする者。
②免許・資格等の取得に積極的に取り組み、卒業後は地域社会に貢献しようとする意欲のある者。
③部活動、資格取得、生徒会活動、ボランティア活動等に地道に努力した者。
なお、これらの活動等において、実績を上げた者については、本学独自の奨学金・減免制度の選考において評価の対象とする。

生活創造学科

教育目標（学訓）

生活創造学科では、建学の精神と教育理念に基づき、常に向上心を持ち、現代社会における豊かな生活の創造に寄与する者の養成を教育目標とする。具体的には各コースが定める学習成果の目標達成を目指す。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生活創造学科の各コースの教育目標と学習成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士の学位を授与する。また、各コースが定める所定の単位を修得した者に、所定の資格を授与する。

学習成果の到達目標

建学の精神と生活創造学科の各コースの教育目標を具現化するために、各コースが定める項目を学修成果の到達目標とする。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生活創造学科の各コースの教育目標と学習成果の到達目標および学位授与の方針を達成するために、各コースが定める項目を教育課程の編成・実施の方針とする。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生活創造学科の各コースの教育目標と学習成果の到達目標および学位授与の方針を達成するために、各コースが定める項目を入学者受け入れの方針とする。

栄養士コース

教育目標（学訓）

栄養士コースでは、建学の精神と教育理念に基づき、実社会で役立つ実践力を備えた栄養士及び食に関する専門家の養成を教育目標とする。そのために地域の食文化を基礎とした教育を実践する。具体的には栄養士コースが定める学習成果の目標達成を目指す。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

栄養士コースの教育目標と学習成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより「食」の分野で社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士（栄養学）の学位を授与する。また、所定の単位を修得した者に栄養士の資格を授与する。

【 尽心 】
相手を思いやり、真心を込めた食の提供を協働で実践できる資質や能力を修得するために、高い向学心と誠意を持って、「誠実な態度と人間力」を身につける。

【 創造 】
栄養士の職場や社会で生じる問題を発見し解決するために、自己管理力や自己啓発力を身につけるとともに食の専門家としての資質や能力の修得に専念し、「高度な知性と創造力」を身につける。

【 実践 】
地域の食文化に誇りをもち、これを伝承し、情報発信する力を養うとともに、栄養士として修得した資質や能力を生かし、他者と協働しながら、地域社会に貢献できる「適切な行動と実践力」を身につける。

学習成果の到達目標

建学の精神と教育理念を具現化するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を学習成果の到達目標とする。

【 尽心 】
★態度・志向（心構え）
①「学習意欲」：勤勉さと真面目さがあり、目標達成に向けて粘り強く学ぼうとする意志を有している。
②「規律性」：善悪や道理の基準となる考え方が明確で、良心と社会の規範やルールに従い、状況に応じて自らを律することができる。

【 創造 】
★知識・技能（専門的能力）
③「知識」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な知識を身につけている。
④「技能」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な技能を身につけている。

★思考・判断（汎用的能力）
⑤「情報活用能力」：多様な情報を適切に収集・分析・判断し、情報および情報機器を効果的に活用することができる。
⑥「課題解決力」：論理的思考と想像力により、課題の発見と解決に取り組み、新しくより良いものを生み出すことができる。

★表現（汎用的能力）
⑦「言語活用能力」：言葉の基本的知識と文章構成力を身につけ、日常生活の中で状況に応じて適切に活用できる。
⑧「コミュニケーション力」：自分の意思や感情を的確に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解することができる。

【 実践 】
★行動・応用（実践力）
⑨「主体性」：自分の意志や判断に基づき、方針や計画を立てて行動し、結果に対して責任を負うことができる。
⑩「協働性」：共通の目標達成のため、他の人と協力して課題に取り組み、自他の能力を引き出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育目標（学訓）と学習成果の到達目標及び学位授与の方針を達成するために、次の項目を教育課程編成・実施の方針として教育を実施する。
授業運営と成績評価は、学則及び各授業科目のシラバスに従って実施する。各科目と学習成果との関連及び系統的な科目構成は、カリキュラム・マップ（リスト型、ツリー型）に示す。

1．「専門基礎」：長崎の食文化を学ぶ長崎食育学を含め、栄養士としての専門的な知識や技術を身につける上での基礎的な知識・技能に関する科目で編成・実施する。
2．「社会生活と健康」：公衆衛生、社会福祉など、社会や環境と健康との関係理解と、保健・医療・福祉・介護システムの概要に関する知識を涵養する科目で編成・実施する。
3．「人体の構造と機能」： 解剖生理学、生化学、運動生理学、病理学など、人体の構造と機能、栄養との関わりに関する知識と技術を涵養する科目で編成・実施する。
4．「食品と衛生」：食品と衛生に関する知識を涵養し、食品の衛生管理に関する実践能力を養成する科目で編成・実施する。
5．「栄養と健康」：栄養・食生活に関する基本的な知識と健康との関連について理解を深め、ライフステージ別や病態に応じた栄養管理の実践能力を育成する科目で編成・実施する。
6．「栄養の指導」：公衆栄養学を基盤に、栄養教育指導についての知識と指導技術を養成する科目で構成・実施する。
7．「給食の運営」：給食の経営管理に必要な知識と技術を身につけ、給食の運営に関する実践能力を養成する科目で編成・実施する。
8．「ゼミナール」：主体的・自立的に学びを深め、食を通した社会貢献への実践力を高める科目として構成する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学習成果の到達目標と学位授与の方針を達成するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を入学者受け入れの方針とする。入学者選抜の基本方針（評価方法、評価項目、評価割合）については、「募集要項」に定める。

【 尽心 】
他者を思いやる気持ちを持ち、何事にも誠実に取り組む意欲のある者。

【 創造 】
食に関する興味関心と、栄養士免許取得の基盤となる基礎学力があり、真摯な態度で学ぶ心を持つ者。

【 実践 】
長崎の食文化を学び、伝承し、情報発信力を身につけて、社会貢献をしたいと願う者。

本学では、特に次のような受験生の入学を期待している。
①高等学校までに修得すべき基礎学力を有し、本学進学後も意欲的に学業に取り組もうとする者。
②免許・資格等の取得に積極的に取り組み、卒業後は地域社会に貢献しようとする意欲のある者。
③部活動、資格取得、生徒会活動、ボランティア活動等に地道に努力した者。
なお、これらの活動等において、実績を上げた者については、本学独自の奨学金・減免制度の選考において評価の対象とする。

ビジネス・医療秘書コース

教育目標（学訓）

ビジネス・医療秘書コースでは、建学の精神と教育理念に基づき、社会人として求められる教養やマナーを身につけさせると共に、ビジネスの現場で即戦力として活躍できる人材の育成を教育目標とする。具体的にはビジネス・医療秘書コースが定める学習成果の目標達成を目指す。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ビジネス・医療秘書コースの教育目標と学習成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより「ビジネス・医療」の分野で社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士（生活学）の学位を授与する。

【 尽心 】
新しい時代に求められる資質や能力を修得するために、ホスピタリティマインドと人間性を持って、「誠実な態度と人間力」を身につける。

【 創造 】
ビジネスや観光・医療等の現場で生じる問題を発見し解決するために、資質や能力の修得に専念し、「高度な知性と創造力」を身につける。

【 実践 】
修得した資質や能力を生かし、地域社会に貢献するために、多様な人々と意思の疎通を図り協働できる「適切な行動と実践力」を身につける。

学習成果の到達目標

建学の精神と教育理念を具現化するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を学習成果の到達目標とする。

【 尽心 】
★態度・志向（心構え）
①「学習意欲」：勤勉さと真面目さがあり、目標達成に向けて粘り強く学ぼうとする意志を有している。
②「規律性」：善悪や道理の基準となる考え方が明確で、良心と社会の規範やルールに従い、状況に応じて自らを律することができる。

【 創造 】
★知識・技能（専門的能力）
③「知識」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な知識を身につけている。
④「技能」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な技能を身につけている。

★思考・判断（汎用的能力）
⑤「情報活用能力」：多様な情報を適切に収集・分析・判断し、情報および情報機器を効果的に活用することができる。
⑥「課題解決力」：論理的思考と想像力により、課題の発見と解決に取り組み、新しくより良いものを生み出すことができる。

★表現（汎用的能力）
⑦「言語活用能力」：言葉の基本的知識と文章構成力を身につけ、日常生活の中で状況に応じて適切に活用できる。
⑧「コミュニケーション力」：自分の意思や感情を的確に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解することができる。

【 実践 】
★行動・応用（実践力）
⑨「主体性」：自分の意志や判断に基づき、方針や計画を立てて行動し、結果に対して責任を負うことができる。
⑩「協働性」：共通の目標達成のため、他の人と協力して課題に取り組み、自他の能力を引き出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育目標（学訓）と学習成果の到達目標及び学位授与の方針を達成するために、次の項目を教育課程編成・実施の方針として教育を実施する。
授業運営と成績評価は、学則及び各授業科目のシラバスに従って実施する。各科目と学習成果との関連及び系統的な科目構成は、カリキュラム・マップ（リスト型、ツリー型）に示す。

1．「総合ビジネスの領域」：ビジネスの現場で求められる総合的な能力に関する科目で編成・実施する。
2．「国際・観光の領域」：国際社会における文化や時事問題、観光に関する理解と適応に関する科目で編成・実施する。
3．「秘書・一般事務の領域」：秘書や一般事務の職場で必要な能力に関する科目で編成・実施する。
4．「医療事務の領域」：医療事務や医療秘書の職場で必要な能力に関する科目で編成・実施する。
5．「総合実践の領域」：実社会での就業体験と実践力強化を図る科目で編成・実施する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学習成果の到達目標と学位授与の方針を達成するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を入学者受け入れの方針とする。入学者選抜の基本方針（評価方法、評価項目、評価割合）については、「募集要項」に定める。

【 尽心 】
他者を思い遣る気持ちを持ち、ホスピタリティマインドを理解することができる者。

【 創造 】
基礎学力と素養があり、ビジネスや観光・医療等の分野を学ぶ姿勢を持ち続ける者。

【 実践 】
ビジネスや観光・医療等の現場で、人の役に立ちたいという強い気持ちを持った者。

本学では、特に次のような受験生の入学を期待している。
①高等学校までに修得すべき基礎学力を有し、本学進学後も意欲的に学業に取り組もうとする者。
②免許・資格等の取得に積極的に取り組み、卒業後は地域社会に貢献しようとする意欲のある者。
③部活動、資格取得、生徒会活動、ボランティア活動等に地道に努力した者。
なお、これらの活動等において、実績を上げた者については、本学独自の奨学金・減免制度の選考において評価の対象とする。

幼児教育学科

教育目標（学訓）

幼児教育学科では、建学の精神と教育理念に基づき、豊かな人間性と思いやりの心を持ち、社会の平和と幸福に寄与する自立した保育者の養成を教育目標とする。具体的には幼児教育学科が定める学習成果の目標達成を目指す。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

幼児教育学科の教育目標と学習成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより「保育」の分野で社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士（幼児教育学）の学位を授与する。また、所定の単位を修得した者に幼稚園教諭二種の免許と保育士の資格を授与する。

【 尽心 】
新しい時代に求められる資質や能力を修得するために、高い保育力と人間性を持って、「誠実な態度と人間力」を身につける。

【 創造 】
保育現場で生じる問題を発見し解決するために、資質や能力の修得に専念し、「高度な知性と創造力」を身につける。

【 実践 】
修得した資質や能力を生かし、地域社会に貢献するために、他者との協力に尽力し、「適切な行動と実践力」を身につける。

学習成果の到達目標

建学の精神と教育理念を具現化するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を学習成果の到達目標とする。

【 尽心 】
★態度・志向（心構え）
①「学習意欲」：勤勉さと真面目さがあり、目標達成に向けて粘り強く学ぼうとする意志を有している。
②「規律性」：善悪や道理の基準となる考え方が明確で、良心と社会の規範やルールに従い、状況に応じて自らを律することができる。

【 創造 】
★知識・技能（専門的能力）
③「知識」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な知識を身につけている。
④「技能」：社会人として必要とされる基礎的・専門的な技能を身につけている。

★思考・判断（汎用的能力）
⑤「情報活用能力」：多様な情報を適切に収集・分析・判断し、情報および情報機器を効果的に活用することができる。
⑥「課題解決力」：論理的思考と想像力により、課題の発見と解決に取り組み、新しくより良いものを生み出すことができる。

★表現（汎用的能力）
⑦「言語活用能力」：言葉の基本的知識と文章構成力を身につけ、日常生活の中で状況に応じて適切に活用できる。
⑧「コミュニケーション力」：自分の意思や感情を的確に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解することができる。

【 実践 】
★行動・応用（実践力）
⑨「主体性」：自分の意志や判断に基づき、方針や計画を立てて行動し、結果に対して責任を負うことができる。
⑩「協働性」：共通の目標達成のため、他の人と協力して課題に取り組み、自他の能力を引き出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育目標（学訓）と学習成果の到達目標及び学位授与の方針を達成するために、次の項目を教育課程編成・実施の方針として教育を実施する。
授業運営と成績評価は、学則及び各授業科目のシラバスに従って実施する。各科目と学習成果との関連及び系統的な科目構成は、カリキュラム・マップ（リスト型、ツリー型）に示す。

1．「教科に関する科目」：保育の５領域を学ぶ上での基礎的素養を養成する科目で構成する。
2．「保育職の意義」：保育者の在り方・職業倫理を考える力を養う科目で構成する。
3．「保育の基礎理論」：教育・心理・福祉の基礎理論を学ぶとともに、自らの保育観を見つめ直す科目で構成する。
4．「教育・保育課程及び指導法」：子ども理解に基づいた保育計画の立案・実践・自己評価を行う上での基礎力を養う科目で構成する。
5．「ゼミナール」：主体的・自立的に学びを深め、自らの保育実践に応用できる科目として構成する。
6．「学外実習」：真摯に子どもと関わる中で、保育者として求められる知識・技能を確認するとともに、多様な保育者との関わりの中で自らの保育観を見つめ直す科目として構成する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学習成果の到達目標と学位授与の方針を達成するために、教育目標（学訓）に基づいて以下の項目を入学者受け入れの方針とする。入学者選抜の基本方針（評価方法、評価項目、評価割合）については、「募集要項」に定める。

【 尽心 】
保育者として誠実な人柄と人間力を身につけるために、子どもや保護者を思いやる心を持ち、協働にむけた努力を惜しまない者。

【 創造 】
保育者としての高度な専門性と創造力を身につけるための基礎学力と素養があり、保育について学ぶ姿勢を持ち続けることができる者。

【 実践 】
保育者として地域社会に貢献する実践力を身につける努力を惜しまない者。

本学では、特に次のような受験生の入学を期待している。
①高等学校までに修得すべき基礎学力を有し、本学進学後も意欲的に学業に取り組もうとする者。
②免許・資格等の取得に積極的に取り組み、卒業後は地域社会に貢献しようとする意欲のある者。
③部活動、資格取得、生徒会活動、ボランティア活動等に地道に努力した者。
なお、これらの活動等において、実績を上げた者については、本学独自の奨学金・減免制度の選考において評価の対象とする。